

学校番号	14	学校名	静岡県立浜名特別支援学校	校長名	大橋 早苗
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
<p>【笑顔】環境づくり</p> <p>安全で安心な学校生活</p>		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が自分の命を守るために適切な判断をし、行動できる指導や支援ができています。 職員が校内や校外での発災時に取るべき行動を具体的に想定できている。 	<p><防災課></p> <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練をとおして「児童生徒が自分で考えて避難行動をとることができた。」と答える教員91% 職員研修において土砂災害について研修を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 緊急地震速報を聞くと迅速に一次避難することができた。地震だけでなく火災の報知器の音についても聞き分けられるようにし、火災発生時の初動についても確実に行えるようにしていきたい。 今まで意識していなかった部分に焦点を当て、確実な避難行動を行えるようにしていきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が自らの健康を意識し、維持増進に向けた取組を行っている。 	<p><体育保健課></p> <ul style="list-style-type: none"> 保健の学習では、各学部グループの実態に応じた内容を扱った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとに学習する内容を決めたことにより、必要な指導をすることができた。 既習内容を教員間で情報共有し、日常生活において生徒の健康を意識した行動への指導支援にもつながった。
		<ul style="list-style-type: none"> 毎日の医療的ケアが安全に実施できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ケアを行うときは声出し確認しながら行い、周りの先生も一緒にケアする意識で行うことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内の医ケア担当者会や検討委員会を定期的に関き、情報や改善に努めることができた。また、保護者との連携を密にし、教室環境や担当教員の配置も工夫した。
		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が、食に関する関心をもったり、知識を身に付けたりすることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、年一回以上栄養教諭による授業を行い、食に関する関心をもったり、知識を身に付けたりできるようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> おすすめ献立の実施時期に合わせて栄養教諭による授業を行うことができた。食育に関する授業を行うことで、苦手なものを頑張って食べようとする姿が多く見られるようになった。
		<ul style="list-style-type: none"> 月1回の点検や日頃の巡回により校内で早期対応する環境整備ができています。 	<p><総務課></p> <ul style="list-style-type: none"> 安全点検簿の期限内回収率100% <p><事務部></p> <ul style="list-style-type: none"> 安全点検等で報告された異常箇所は予算の範囲内で対応できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 提出を催促する必要があった。電池や蛍光灯に関しては事務室への連絡となっているため、引き続き事務室との連携を図っていく。 月1回の安全点検の他に、校内を移動するときに施設設備の安全確認をしながら移動する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・安心して授業に参加したり、自らの考えを発信したりできる環境をつくることができている 	<p><生徒指導課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権を尊重した指導支援により、児童生徒が安心して自らの考えを伝える（発信する）ことができる環境を作ることができた。と答える教員が87%だった。（数値目標85%） 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な人権チェックやアンケート、呼び掛け、ミニ研修などを行うことにより、教員の人権意識を高めることができた。今後は教員同士のコミュニケーションの場を増やし、互いの人権感覚を確かめ合うようにしていきたい。
専門的指導力の向上		<ul style="list-style-type: none"> ・支援の内容や方法について、関係者と共有しながら支援ができている。 	<p><特別支援課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別面談で、支援内容を保護者と共有することができた。 ・30%の保護者が医療や福祉の関係機関との情報共有に活用していた。 <p><自立活動課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部専門家やリハビリ見学などを通して、指導支援の方向性について整理し、自立活動の指導に生かしていくことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関に対して、個別の教育支援計画・指導計画について情報共有のためのツールであることを周知する必要がある。 ・自立活動の指導や成果が他機関でも生かされるように保護者や各関係機関との情報を共有できるようにしていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「個別の指導計画」が授業の計画時や振り返り時に活用され、授業改善に役立っている。 	<p><教務課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画を授業計画時や振り返り時に活用できた。と答えた教員98% ・学部会でミニ研修を実施し活用を促した。 ・年度当初に自立活動課、教務課、特別支援課合同で説明会を実施した。 <p><自立活動課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の視点を持ち、実態把握を下にした個別の指導計画の目標設定や指導の充実について学習会等で投げ掛けを行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の計画時に、個別の目標を共有するなど、意識的に活用することが増えた。 ・引き続き、学部会等で個別の目標や支援を見直す時間を定期的に設ける。 ・特別支援課、自立活動課と連携して、作成の意義、記入の仕方、作成テンポについて、説明会や掲示板等で分かりやすく伝える。 ・チェックシートなどを用いて個々の実態把握を行い、目標設定を行うことができた。各学部・学年で実態把握や指導について検討する時間を持ち、実践例などについても情報共有を図っていく

		<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の指導力が向上してきていると実感できている。 	<p><研修課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・できた、少しできたと答えた職員 100% <p><管理職></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年次研修の報告を読み感想や意見を伝える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間での情報共有により、新しい視点を生かした指導や指導内容を整理することができた。 ・児童生徒の実態、視点に着目し、評価の方法が幅広くなった授業が増えた。研修の窓口になっている授業だけでなく、授業全体に生かしていきたい。 ・初任者に対しては出張報告時に、学ぶポイントや学んだことを対話することができた。その他の年次研修者に対しては、報告書を読み、こちらの感想を伝えたが、対話にまで至らなかった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・自主研修会やOJTチームによって得られた気づきが指導や組織運営に生かされている。 	<p><各分掌></p> <p>○小学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニ研修と夏季学部研修を実施した。 <p>○中学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つなタイ、授業チャットやグループ会による狙いの明確化や支援の工夫をした。 <p>○高等部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間5回の学部ミニ研修を行った。 <p><管理職></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿った話し合いを学年会で行い、学年組織の同僚性を高めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学部のミニ研修が基本的なことを再確認する場となり有意義だった。次年度も継続していく。 ・話し合いの時間が設定されていることで、様々な情報を共有することができた。設定された時間以外でも自然と話し合えるようにしたい。 ・人権を意識して生徒と関わる事ができた。情報交換の場としての時間を設定していきたい。 ・学年内での他者理解が進んだと答える学年主任が半数以上いた。今後も継続していきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で雑相（雑談と相談）できる時間が増えている。 ・不祥事案件の発生件数0。 	<p><全教職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員間での雑相タイムにより他者理解が進むきっかけとすることができた教職員 91% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・雑相できる雰囲気大切に感じている教員が多く、設定した時間外でも雑談するように心がけているとのこと。反面、設定された時間だけでは不十分であると答える職員もいた。

<p style="text-align: center;">【仲間活動づくり】</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">主体性を発揮できる授業づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒がワクワク（期待感と意欲）する姿と夢中に取り組む姿を実現する授業ができている。 	<p><各学部></p> <p>○小学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉掛けに着目し、自ら考えて活動する姿につながる授業づくりに取り組んだ。 <p>○中学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解決したい課題や問いを明確にしたうえで授業づくりを行い、生徒の思考を踏まえた目標設定、活動設定を行うことができた。 <p>○高等部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりシートを作成し、生徒の実態や重点目標を共有した上で、解決したい課題や問いを設定することができた。 <p><研修課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・深い学びを実感する授業づくりができたと答えた職員 98% 	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々、授業改善に取り組むことができた。具体的で評価できる目標、評価規準の設定をしていきたい。 ・生徒にとってわかりやすい活動内容の設定や展開の工夫により、生徒が見通しをもって意欲的に取り組む姿が見られた。今後も根拠ある目標設定を行うとともに、学びの過程を想定した具体的で段階的な指導を行っていきたい。 ・あられや課題点を共通理解し、学びの過程や手立てについて授業改善することができた。今後は単元と単元とのつながりを意識した段階的な指導や目標設定をしていきたい。 ・どのグループも日々授業改善を行い、児童生徒の実態や思考、意欲を意識した授業づくりをすることができていた。 ・実態や学びの過程を見取る力を高めることで、授業の質を上げ、児童生徒が学びを実感できる授業づくりを行っていきたい。
--	---	--	---	--

	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解、自己選択、自己決定を促す機会を作り、将来の社会生活を自分事として捉えることのできる学習ができている。 	<p><各学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学部 <ul style="list-style-type: none"> 自己選択、自己決定の場面を多く設定することができた。 ○中学部 <ul style="list-style-type: none"> 授業づくりの際、キャリア教育のおさえを確認しながら授業の展開を検討し、自己決定・自己選択などの機会を確実に設けるようにした。 ○高等部 <ul style="list-style-type: none"> 職業の学習サイクルを意識した授業づくりをすることができた。 <p><進路指導課></p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育のおさえを活用して将来の姿を意識して授業づくりをすることができたと答える教員80%以上。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 選択するためには、選択肢自体が分かる学習にも丁寧に取り組みたい。 やりたい活動や教材を自分で選んだり、活動の仕方を生徒自ら考えたりする姿が見られた。キャリア教育のおさを定期的に見直し、中学部段階で身に付けたい力を共通理解して取り組んでいきたい。 職場実習での評価や課題から、日々の目標を立てることができた。具体的な目標設定をしていきたい。 将来までは見通せないが、今後の姿をイメージして授業を考えることができた。自立グループのキャリア教育に関してはR5年度からスタートする予定。
<p>関わり合いが生まれる授業づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本に親しむ機会の確保や働き掛けをとおして、児童生徒の興味関心や関わり合いが広がっている。 	<p><教務課></p> <ul style="list-style-type: none"> おはなし会4回ほか日常的な取組(小) おはなし会2回、本の時間6回ほか日常的な取組(中) 毎月1回LHRを図書の時間として学年ごと読書活動を実施(高) 児童生徒の実態に応じた読書活動により、本への興味関心や関わり合いが広がったと答える教員94% 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学部の実態に応じて、おはなし会や本の時間、LHRなどで本に親しむ機会を設けることで、児童生徒の興味関心や関わり合いの広がりが見られた。 読書週間や図書委員会の活動などを通して、継続的に本に親しめる機会を設けていく。 外部団体によるおはなし会は来年度も継続実施する。

様式第3号

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内外の環境を生かした活動をとおして、児童生徒の発想や表現を引き出すことができています。 	<p><各学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学部 <ul style="list-style-type: none"> ・学校内の人や物、周辺の場所や自然を活用した学習に取り組むことができた。 ○中学部 <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いたダンス及びリズム運動の授業を設定することにより、表現活動を充実させることができた。 ○高等部 <ul style="list-style-type: none"> ・多様な人材を活用し、自分の気持ちを発信する授業づくりをすることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校外でのびのびと学習する中で児童同士の関わりが広がり、深めることができた。 ・生徒の実態に合った動きや振りにより、生徒たちが意欲的にダンスに取り組む姿が見られた。自信をもって大きな振りで踊ることができた。 ・音楽療法やリトミックを通して、音楽に親しみ、感情や気持ちを表出することができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達のことを発信したり、受け止めたりする学習ができています。 	<p><教務課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用して自分の考えを発信したり、様々な情報を受け止めたりする学習ができたと答える教員88% ・情報に関する職員研修6回、掲示板での情報発信5回実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用の機会が増加した。今後も環境整備を進め、段階的に実践研修等に取り組んでいく。 ・今年度Google一人1アカウントを取り入れたことで、活用の幅は広がっていくと思われる。今後は生徒用のGoogleアカウント取得にも取り組んでいく。

		<ul style="list-style-type: none"> ・授業を見合うこととおして互いを理解し合うことができています。 ・行事において、児童生徒同士の関わり合いの場を作り出すことができています。 	<p><各学部></p> <p>○小学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会、総練習、学部ダンス等で縦のつながりをもつことができた。 <p>○中学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的の教員が肢体の授業に入る機会や学部集会など合同で実施する機会を定期的に設けた。 <p>○高等部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業グループと自立グループの自然な関わり合いが持てる機会を設定した。 <p><運動会/海風祭></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会では見合う会や他学部参観の日を設定し、他学部の運動会の活動を見ることができる日を設定した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を見合い、共にすることで他の場面でも声を掛け合うなど関わりが広がった。 ・双方の教員が互いの生徒の実態や目標などを理解し、学習内容を建設的に話し合うことができた。 ・職員の給食交流や、生徒の配布物係など関わり合いを持つことができた。 ・授業時間内での見合う会に参加している人はとても少なかったため、開催時間や見学対象者の絞り込みなどの工夫が必要。その中でも昼休みに行ったダンスや応援を見合う会はとても良かった。 ・万国旗については、高等部の生徒会から中学部の生徒会へ依頼をする場面があり、関わり合いの場を設定することができた。
【地域】関係づくり	地域とつながる活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との交流が生まれ、地域資源を活用した学習活動を実施できている。 	<p><各学部></p> <p>○小学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺の散策、お礼の手紙を渡すなど、地域と関わる活動に取り組めた。 <p>○中学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と共同での奉仕作業を実施した。 <p>○高等部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した学習活動を増やし、学びを深めることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校外ならではの学びがあった。さらに地域との関わりが広がられると良い。 ・地域の方と会話を楽しみながら共に活動することにより、交流を深めることができた。継続して実施していきたい。 ・作業学習では、地域と連携して販売や協働作業をすることができた。今後も継続して実施したい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域への分かりやすい情報発信ができています。 	<p><教務課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページから学校や児童生徒の様子がよく伝わったと答える保護者 96% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なホームページの更新。(月1回以上) ・保護者に対して、コクーでのお知らせメール配信を開始し、正確で迅速な情報発信を行った。 ・地域への情報発信の充実に向けて、ホームページや他の方法について検討する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・交流籍を活用した交流や学校間交流が互いの児童生徒にとって、自分を表現できる活動内容になっている。 ・地域の幼・保園や小・中・高校からの依頼を受けて、必要なサポートをすることができている。 	<p>＜特別支援教育課＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の状況に対応した活動内容の基準を明確にした。 ・活動内容の実践例を情報提供した。 ・高等学校にコーディネーターが訪問し、ニーズの把握とともに関係性を周知した。 ・幼保園には定期的に訪問した。小学校からは就学に関してや、児童の支援の具体的なサポートや保護者からの相談にも対応した。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流校に出かけることにより、その子なりの主体的な関わりを引き出すことができた。交流を有効なものにするため、事前に自己紹介カードを送り合うなど間接的な交流も合わせて実施することが必要である。 ・高等学校からの相談件数が増え、地域の高等学校との関係構築ができた。特別支援教育のセンター的機能を果たすために構築された関係を維持していく必要がある。
--	---	---	---